

日本テコンドー協会法（J T A 法）
試合法
2016 全日本 F T 大会 新設種目及び階級

2016 年 7 月 2 日
日本テコンドー協会
宗師範 河 明生

第 27 回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会（2016 年 11 月 26 日土曜日、後樂園ホール）より、次の 2 種目を新設し、組手 1 階級を増設するものとする（6 月理事会承認）。

一、組手 「女子組手 B 級」新設と
「中学生男子組手＜軽量級＞」の増設

日本テコンドー協会（以下、J T A）は、前進団体創立以来、約 34 年にわたり多くの試合を主催してきた。その間、ただの一度も死亡や後遺障害等の大事故が 1 件もない。

J T A 組手ルール等の賜であるが、格闘技である以上、今後も死亡事故等が絶対おきないという保障はない。

ゆえに今後も、死亡や後遺障害等の大事故を防ぐための対策やルール等の改善が不可欠である。

「一部男女組手の 40 歳迄年齢制限」、「男子組手出場選手体重 90 k g 以下制限」、「男子組手 B 級新設」は、その実践である。

2016 年度も、上記の主旨にもとづき次の 1 種目を新設し、1 階級を増設する。

1、組手新設種目 女子組手 B 級

1) 理由

女子の社会的進出志向の向上により一部フルコンタクトに挑戦する女子、とりわけ女子大生が増えている。

①女子大生の場合、客観的に 2 年半程度の稽古では、一部の選手を除けば、防御技術及び打たれ強さ等の身体的能力において全日本大会で強豪選手と同じ土俵で戦うには厳しいものがある。

②精神力に裏付けられた技術力を高めるための宗師範総見も積極的に参加する者が少ない。

他方、参加している選手は成長が著しい。

これは「稽古・練習の質を絶えず高めるというアスリートの定石」の差違による当然の結果といえる。

③フルコンタクト・ルールへの精神的肉体的技術的対応能力涵養は、5 年以上のキャリアが必要である。
だが、格闘技の殿堂・後樂園ホールでの全日本 F T 大会出場は、

あまりにも高いプレッシャーと緊張、事故や痛みへの恐怖等を女子大生選手に与え、その結果として「全日本F T大会初出場後・即引退」する者が多い。この悪循環を断ち切る必要がある。そのためには同キャリア・同レベル同士の対戦が望ましい。少なくとも事故や痛みへの恐怖は、緩和できるので、その分、大事故を防止できる。

- ④過去は挑戦する女子選手が少なかったので新設する余力がなかった。
ところが最近では、男子大学生よりも女子大学生の方が根性があり、挑戦者が増えたので新設が可能となった。
- ⑤「ゆとり世代」等、20代の若者の資質が問われる中、大学で武道系の体育会に所属して黒帯を取得し、しかも後樂園ホールで開催される全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会に出場しているとなれば、大企業の採用者から、高い精神力、根性・根気、礼儀作法等の人間力で高い評価を受ける。実際、全日本F T大会に出場した大学生の就職先は良好である（逆はあまりよくない）。たとえば、毎年20名程度しか採用しない職種で全日本F T大会出場者が採用されている。（昨年度は建築業トップで採用、本年度は家電トップの大企業に内定）警察や消防署では、落ちることが稀という状況である。そして殆どの場合、最終面接で、「テコンドーのことは聞かれませんでした」と報告している。つまり大企業の人事採用で履歴書欄に「全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会出場」と書けるか否か、これが勝負の分かれ目となっており、「A級」であるか「B級」であるかの差はないと考えられる。

もとよりJ T Aテコンドーは就職のためにあるわけではない。自分を高めるためにある。だが、本人や親はもとより日本人の大部分が良い就職先を目指しているという事実を鑑みると、他の多くの大学生がバイトや遊び等に邁進している中、学問同様、体育会テコンドー部でがんばった若者の将来が輝くことを希望するのが「師の心」である。

よってより多くの若者に比較的安全なチャンスを与えるため新設するものとする。

2) 予選会

「一部女子組手B級」という名称で予選会は行わない。主催者が予選会でのレベルと結果にもとづき判断する。

2， 組手増設階級 中学生男子組手＜軽量級＞

1) 理由

- ①男子中学生は身体的成長に著しい差がある。
現在、最も高い身長は180cm、体重では70kgである。
他方、最も低い身長は140cm前後、体重では40kg前後である。
両者の全日本F T大会での組手試合は危険である。
- ②J T Aは、もともと少年少女部がほとんどいなかった。
増加したのは最近のことで、選手層が薄かったため増設する余力がなかった。
ところが最近、少年少女部の増加と試合に積極的に参加する者が増えたため増設が可能となった。

むろん地方の予選会では難しいのだが、全日本F T大会では可能となった。

よって中学生男子組手は、＜軽量級＞と＜無差別級＞の２階級制とし、安全性を高めるものとする。

2) 予選会

すべての地方予選会で実施したいが、そこまで選手層があつくない。

要項で募集した上で決めるしかない。

比較的関西大会には中学生男子選手のエントリーが期待できるので実施する予定である。

3) その他

＜軽量級＞は、体重だけでは判断しない（＜ ＞している所以）。

身長も考慮して大会主催者が判断するものとする。

二、蹴武型 「蹴武型 B 級」 新設

1, 理由

2016年3月より、全日本F T大会における蹴武の型新ルールが施行された。

かなり難易度が高くなり予選会参加者が半数以下に減っている。

参加者の大部分が少年少女部も含めベテランであり、新人の挑戦は数えるほどしかない。

この状況は、今後、続くと考えられる。

だが、様々な事情により組手試合に参加できない選手も存在する。

彼らにも、上記の「一の1の⑤」同様のチャンスを与えるべきである。

2、予選会

関西テコンドー選手権大会および全日本学生テコンドー選手権大会で新種目「蹴武型B級」で実施する。

3, その他

ルールは、一部蹴武型以外のルールで実施する。 男女混合試合であり、年齢制限はない。

本法は、2016年8月11日より施行する。